第１１節　道徳教育（「特別の教科　道徳」を含む。）

第１　小学校学習指導要領（平成２９年３月告示）の趣旨と道徳教育

１ 道徳科を位置付けた経緯とそのねらい

平成２５年２月２６日、教育再生実行会議は、いじめ問題等を未然に防止するためには道徳教育の充実が必要であり、そのために道徳を新たな枠組みにより教科化して、指導内容を充実し、効果的な指導方法を明確にすることが重要であると第一次提言で述べた。このことを受け、道徳教育の充実に関する懇談会、中央教育審議会の審議を経て、平成２７年３月、文部科学省は学校教育法施行規則及び小学校学習指導要領を一部改正し、「道徳」を「特別の教科である道徳」（道徳科）と位置付けた。そして、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと転換を図ることとした。

これは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科の指導の充実を図り、自他の生命を尊重し、自己肯定感を高め、他者への思いやり、規範意識、自主性や責任感などの人間性・社会性を育み、いじめ問題等の未然防止につながる実効性のある道徳教育を展開しようとするためである。

この改正された小学校学習指導要領は、すでに平成２７年４月１日から移行措置として、その一部又は全部を実施することが可能になっており、平成３０年４月１日から全面実施される。

ここで改めて、平成２７年７月に公表された小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編で指摘されたこれまでの道徳教育の課題を具体的に挙げ、その改善にしっかりと取り組んでいく必要があることを確認しておきたい。

・歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること
・他教科に比べて軽んじられていること
・読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること

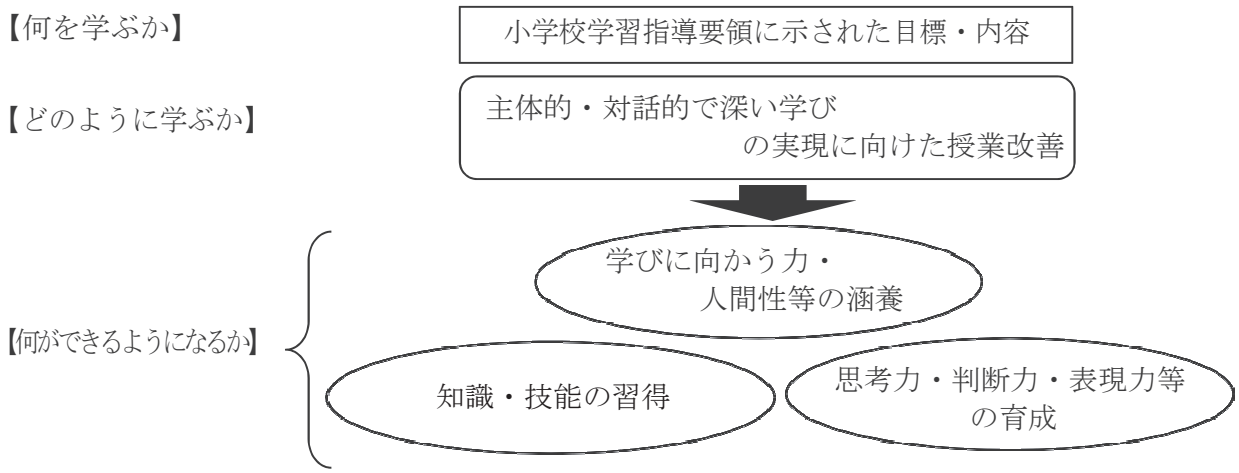
２ 今回の小学校学習指導要領改訂の趣旨と道徳教育

これからの社会は、グローバル化の進展や人工知能の飛躍的な進化などにより、加速度的に変化していくものと予想される。将来どのような社会になるのかを予測することは極めて難しいと言わざるを得ない。我々は、このような時代・社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出し、たくましく生き抜いていく人間を育てていかなければならない。これからの教育は、そのために必要な資質・能力を子供たちに確実に育んでいくことが求められる。

子供たちに必要な資質・能力とは、以下の三つの柱に沿って具体的に捉えることが必要である。

①生きて働く「知識・技能」の習得
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

これらの資質・能力を育むために、「学び」の本質として重要となる主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が大切である。そのため、今回の小学校学習指導要領の改訂は、これまでの中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しにとどまらず、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えた改善となった。主体的・対話的で深い学びの実現とは、「何ができるようになるか」という子供たちに必要な資質・能力を育成するために、「何を学ぶか」という子供たちに必要となる資質・能力を踏まえた学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てて改善を目指したものである。主体的な学びとは、学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすることである。対話的な学びとは、学び合いなど他者と協働すること等によって、多様な見方・考え方を学ぶことである。深い学びとは、学んだことを生かして、自分なりの次の課題を見つけることである。これらの学びが実現するように授業を組み立てていくことが重要である。



平成２７年３月の道徳の改訂により、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため」として、学校の教育活動を通じて行う道徳教育の目標と同一であることを分かりやすく明らかにした。その上で、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と道徳科で育成すべき資質・能力を明確にした。

これは、今回の小学校学習指導要領の改訂の趣旨である、これからの社会を生き抜いていく上で必要な資質・能力を子供たち一人一人に確実に育む学校教育の実現を目指すという基本方針を先取りしたものである。すなわちこれまでの中心であった「何を学ぶか」という指導内容にとどまらず、「考え、議論する道徳」（どのように学ぶか）「主体的な判断に基づいた道徳的実践ができる」（何ができるようになるか）までを見据えた改善である。道徳科の授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために改善を図るとともに、道徳教育を通じて、児童生徒の「学びに向かう人間性」を涵養することが重要である。

さらに、資質・能力の三つの柱と道徳科の関係を具体的に捉えれば、道徳科の目標である「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学 習を通して」の記述を三つの柱に分節することはできないものの、次のような部分を重視するといった整理が考えられる。

「知識・技能」　　：道徳的諸価値についての理解
「思考力・判断力・表現力等」：物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める
「学びに向かう力・人間性等」：よりよく生きるための基盤となる道徳性、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める

このことを十分に踏まえつつ、道徳科の授業を主体的・対話的で深い学びの実現に向けて「考え、議論する道徳」へと質的転換を図り、意識して実践することが大切である。

第２　本資料の活用について

本資料は、道徳科及び道徳教育の一層の充実を図るために、道徳科学習指導案、道徳科の年間指導計画、道徳教育の全体計画について、その作成と評価、改善について、各学校の参考に資するために作成したものである。

１ 道徳科における指導と評価の一体化について

○道徳教育において、その充実を図るためには、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての道徳科の指導と評価の一体化を図ることが極めて重要である。

○道徳科においても、他の教科等と同様に、計画、実践、評価という一連の中で、繰り返しながら指導に生かす評価の充実を図り、児童の道徳性の育成を目指していかなければならない。

○道徳科の評価においては、道徳科の目標に規定されている学習活動「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して」を行う授業であることが前提である。つまり、次の学習活動が意図的に行なわれていなければならない。

・道徳的諸価値を理解する
・自己を見つめる
・物事を多面的・多角的に考える
・自己の生き方についての考えを深める

○道徳科における評価は、「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値等による評価は行わないものとする」（「第３章特別の教科 道徳」の「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」の４）と記されている。つまり、道徳科においては、次の２点を評価する。

・道徳科の授業での児童の学習状況
・道徳科の授業を通して把握できる児童の道徳性に係る成長の様子

○具体的には、道徳科の授業での児童の発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、次の点から把握し、特に顕著と認められる状況を記述しておく。

・友達の考え方に触れ、自ら思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
・多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

それには、児童のノートや感想等をファイルした資料も活用し、年間３５時間の授業という期間で見取っていくなど工夫が必要である。

○この評価により、児童は、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていき、教師は自らの道徳科の目標や学習指導過程、指導の諸方法を見直し改善、充実に取り組むものでなければならない。

○道徳科の充実を図るために、学習指導案のうち特に学習指導過程の評価と改善が重要である。

○道徳科の年間指導計画の見直しは、道徳科における評価の蓄積を基に図ることを基本とする。

○道徳教育の全体計画に基づく学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の評価についても、児童の実態を評価するとともに、道徳科において評価する児童一人一人の学習状況や道徳性に係る成長の様子の蓄積を基に行うことが大切である。

２　本資料の活用に当たって

○本資料は、道徳科学習指導案（特に学習指導過程）、道徳科の年間指導計画、道徳教育の全体計画の作成と評価、改善について、以下の項目を挙げて説明している。

１ 具備しなければならない要件
２ 具体例
３ 工夫、配慮事項等
４ 本計画に基づく指導における評価
５ 評価に基づく改善のポイント
６ 改善した計画の具体例
７ 考察

・作成段階の資料として記載されている項目は、１～３である。
　１ について：作成段階において書かれていなければならない内容や備えておかなければならない要件である。これは計画等の形式的な評価の観点でもある。書かれていなければ計画等の不備であり改善しなければならない。
　３ について：作成に当たり工夫や配慮しなければならない内容である。ここに書かれていることを踏まえ計画等を作成することが重要である。
・評価段階の資料として記載されている項目は、４である。
・改善段階の資料として記載されている項目は、５、６である。
　５ について：評価を基に、どのように改善を図ることが必要であるか書かれている。
・全体を通して、改めて考えておかなければならないことを記載しているのが、７の考察である。

○本資料を活用し、計画等を軸に道徳科及び道徳教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の促進を図ることが重要である。道徳科及び道徳教育を一層充実させるためには、計画等を作成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立することが必要である。

第３　学習指導案（学習指導過程）の作成と評価、改善

「道徳科の指導（学習指導過程）について」

〈道徳科の特質を押さえる〉

> 道徳科は、**児童一人一人が**、ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を**多面的・多角的**に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して内面的資質としての**道徳性を主体的に養っていく**時間である。
>
> （小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　P75）

〈目指す学習〉

授業改善を目指す！

「子供たち自身が人間としてよりよい生き方を求め、生きていく上で必要な事柄（道徳的価値）について**自分の問題として考え**、学んだ内容を現在及びこれからの**生活において生かしていく**」ために、子供たちが**主体となって**学び合える学習。

学校の指導方針や子供の発達の段階や特性、実態等を考慮し、指導のねらいに即して行う

そのためには
多様な
指導方法の
工夫が必要

- **問題解決的な学習**
- **道徳的行為に関する体験的な学習**
- **登場人物への自我関与が中心の学習**

※　これらは一例であり、限定された指導方法ではない。指導観・児童観・教材観に基づき、適切な指導方法を選択しながら工夫していくことが重要である。

配慮すること

☆　一人一人が伸び伸びと、安心して自由に発言できる（発言したくなる）雰囲気を日常の学級経営の中で醸成していく。

☆　自分たちにとって切実な道徳的な問題について、多様な観点から根拠をもって考えられるようにする。

☆　一人一人の考え方や感じ方を大切にするとともに、異なる考え（価値観）をもつ人と話し合う場面を設定し、自分とは異なった考えに接する中で自分の感じ方や考え方を明確にさせていく。

☆　道徳的価値について、どのように捉え、どのような葛藤があるのか、また道徳的価値を実現することにどのような意味を見いだすことができるのかなどについて、自分との関わりにおいて捉えられるようにする。

☆　相反する道徳的価値のどちらか一方の選択を求められる場合、多くは正解が存在しないので、こうした問題には多面的・多角的に考察し、問題解決的な学習を取り入れることが有効である。

道徳科の授業の充実が極めて重要である。そのためには、授業のねらいの検討、教材の吟味等を通して、よりよい学習指導案を作成しなければならない。

学習指導案の形式及び作成のポイントは、埼玉県小学校教育課程編成要領（平成30年3月）に示されている「学習指導案」によるものとする。ここでは、よりよい学習指導案を作成するために必要な指導資料、及び評価資料を提供するものである。

確認としてまず、道徳科の授業として具備しなければならない要件を挙げる。その上で、道徳科の授業がどのように行われるかを記載する学習指導過程の作成と評価・改善について述べていく。

＜道徳科の授業として具備しなければならない要件＞

① 年間指導計画に位置付けられた主題を取り上げる。
② 児童や発達の段階、学級の実態に応じて、教師の創意工夫を生かす。
③ 本時のねらいを踏まえ、適切な発問や指導方法等を用意し授業時間を考慮して配置する。
④ 道徳科の目標を踏まえ、次の５点を意識して授業を組み立てる。

○道徳的諸価値の理解
・価値理解
（内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切であると理解すること）
・人間理解
（道徳的価値は大切でもなかなか実現できない人間の弱さ等を理解すること）
・他者理解
（道徳的価値についての感じ方、考え方は一つではなく、多様であると理解すること）
○自己を見つめる（自分自身の問題として受け止める）
○物事を多面的・多角的に考える（多様な感じ方や考え方に触れる）
○自己の生き方についての考えを深める
（生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現しようとする思い・願いを深める）
○道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

＜教材の登場人物への自我関与が中心の学習指導過程の作成と評価、改善＞

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

１　具備しなければならない要件

① 児童が登場人物に共感し、自分を投影しやすい教材
② 教材の登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えさせる発問
③ 道徳的価値を自分との関わりで捉えたり、交流して自分の考えを深めたりする発問
④ 自分が今どのような考え方や感じ方をしているのか気付かせ、自覚を促す学習活動
⑤ 自分を素直に語れるような学習環境づくり

＜基本的な学習指導過程＞

導入	本時の学習へ関心を向ける ・本時の主題に関わる問題意識をもつ ・教材に興味や関心をもつ ・学習の雰囲気をつくる
展開	教材を読んで考える ・登場人物への共感を促す発問 ・登場人物の判断や心情を類推する発問 ・児童の発言を整理し、比較したり検討したりする活動（話合い等） ・自分の生き方についての考えを深める発問や活動
終末	本時の学習をまとめる ・教師の説話 ・学習を振り返り、自分の考えをまとめる

2　具体例（中学年）

①　主題名　　みんなで楽しい学級を

内容項目　【C　よりよい学校生活，集団生活の充実】

②　ねらい　　進んで学級のために働くことについて多様な感じ方や考え方を出し合い、その話合いを通して、みんなで協力し合うことで明るく活力あふれる楽しい学級をつくっていけることを理解し、積極的に集団の活動に参加しようとする態度を育てる。

教材名　　ハッピースマイル（出典「彩の国のどうとく　みんななかよし」埼玉県教育委員会）

③　学習指導過程

1　具備しなければならない要件①

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1　教材への関心を高める。 ○自分たちの学級目標を言いましょう。４月に、どんな気持ちでこの目標を決めましたか。	・みんなで仲良く、楽しいクラスにしたいと思って決めた。 ・いいクラスにしたい。	・自分たちの学級目標の話題から、本教材の学級でも目標とする合言葉があることにつなげていく。
展開	2　教材を読み考える。 ○　昼休みの始めにそのままになっている配膳台を見つけたはるかは、どんな気持ちでしょうか。	・だれも片付けなくていいのかな。 ・ドッジボールが始まっちゃう。 ・私は自分の仕事をした。 ・係の人が休みだから仕方がない。 ・誰かがやればいいのに。	・配膳台に気付いたものの、自分の仕事ではないので見て見ぬふりをした主人公の気持ちに共感させる。
	○青木先生の言葉を聞き、うつむいているときのはるかは、どんなことを考えているでしょうか。	・面倒くさいなあ。 ・自分の仕事はしたのに、なぜやらなくてはいけないの。 ・私が片付けようかな。	・うつむいている主人公の内面を出し合うことで、多様な角度から主人公の考えや心情を考えさせる。 ☆自分がやるべきかどうか悩んでいるはるかの内面を考えている。
	○配膳台を片付けているみんなが笑顔になったのは、どうしてでしょうか。	・みんなで協力して片付けられたから。 ・配膳台がきれいになって気持ちがいいから。 ・みんなの合言葉が達成できて嬉しいから。	☆みんなで協力し合ってクラスのために働くと、明るく楽しいクラスをつくっていけることについて、自分の体験と結び付けながら考えている。
終末	5　教師の説話を聞く。		・みんなで協力し合い、明るく活力あふれる楽しい学級をつくっていく意欲を育てる。

1　具備しなければならない要件⑤

1　具備しなければならない要件②

1　具備しなければならない要件④

4　本学習指導過程に基づく指導における評価に示す内容をこの中で見取っていく。

1　具備しなければならない要件④

3　工夫、配慮事項等

①　導入は、教師の意図が生かせるよう様々に工夫するとよい。

・生活体験の想起、発表　　・事前アンケートの結果の提示　　・教材に関する場面絵や写真、VTR

・音楽を聴く　　・ねらいに関わる新聞記事、児童の作文、詩や短歌　　・地域の人々の話

・実物に触れる体験　　など

②　展開は、登場人物の心情理解のみの指導になってはならない。登場人物に自分を重ね、判断や心情を共感的に捉えたり、投影的に捉えたりする。

・主人公は○○のとき、どんな気持ちでしょうか。

・主人公は○○のとき、どんなことを考えたでしょうか。
・主人公は○○のとき、どう行動するでしょうか。あなたは、どうしてそう思うのですか。

③　自己の生き方について考えを深めるために、あえて展開段階に後段をおき、自己を見つめさせることも考えられる。

④　終末は、本時の学習に余韻をもたせたり、自分なりの考えを再構築したりできるよう工夫するとよい。
・教師による説話。
・本時のねらいとする道徳的諸価値について、自分なりの考えをまとめる。
・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだこと等を振り返る。
・本時で学習したことを今後に生かそうとする意欲を高める。

⑤　自己を登場人物に投影しやすくするよう場面絵や役割演技を工夫する。

⑥　自己の生き方についての考えが深まるよう、話合いを工夫する。

4　本学習指導過程に基づく指導における評価（児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子）

①　自分を主人公に託して自らの気持ちや考えを語っていたか。（人間理解）

②　多様な感じ方や考え方を基に、自分の感じ方や考え方が明確になったり新しい価値観に気付いたりしていたか。（価値理解）

③　友達の発言のよさや自分との違いに気付いたか。（他者理解）

④　評価の視点を予め用意しておき、中心発問等での児童の発言を教師が読み取っていくことが重要である。その際、「どの発言がよいか」というのではなく、「児童を理解していく」という姿勢で児童の発言を捉えていかなければならない。

例えば、児童の発言を「他律」「社会律」「自律」の３つの視点から捉えていくことも考えられる。本時の例で言えば、次のような表を用意しておき、記録していくとよい。

	発　言　例	児童名
自律	・困った時には進んで支え合わないと、気持ちよく生活できないから。 ・一人ひとりが進んで行動すれば、ハッピースマイルでいられるから。	児童Ａ 児童Ｂ　など
社会律	・学級の合言葉で「みんなもいい。」ことをやると決まっているから。 ・早く片付けないと授業が始まらないから。 ・みんなが困るから、私が片付けよう。	
他律	・誰かが片付けなければ先生に怒られる。 ・私は自分の仕事をしたのに、どうしてやらなければいけないのかな。	

※　上記の視点から、児童の発言や記述等を観察して記録しておく。

5　評価に基づく改善のポイント

「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を捉えるための視点をあげ、児童を見取る具体的な内容を示す。

①　「物事を多面的・多角的に考えている様子」の視点から
・片付ける理由として「怒られるから」「クラスの合言葉で決まっているから」等の、他律的・社会律的な発言が多く見られた。
⇒ア　「片付けない」という立場のほかに、片付ける理由を２つに分け、違いを比較することで、「よりよい学校生活とは何か」を多面的に捉えられるようにする。必要に応じ教師から自律的な考え方を提示する。

②　「道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子」の視点から
・自分を主人公に託して発言する様子があまり見られなかった。
⇒ア　場面絵を用いて、自己投影しやすくする。
・中心発問において、「しぶしぶ片付ける」「片付けない」という主人公の気持ちに共感する発言が多く、多様な考えが出なかった。
⇒イ　「進んで片付ける」という気持ちを提示し、改めて主人公に託して考えさせ、道徳的価値に支えられた自己にも気付かせ、自己を語らせるようにする。

6　改善した本学習指導過程の例

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1　教材への関心を高める。 ○自分たちの学級目標を言いましょう。4月に、どんな気持ちでこの目標を決めましたか。	・みんなで仲良く、楽しいクラスにしたいと思って決めた。 ・いいクラスにしたい。	・自分たちの学級目標の話題から、本教材の学級でも目標とする合言葉があることにつなげていく。
展開	2　教材を読み考える。 ○昼休みの始めにそのままになっている配膳台を見つけたはるかは、どんな気持ちでしょうか。 ○青木先生の言葉を聞き、うつむいているときのはるかは、どんなことを考えているでしょうか。 5　評価に基づく改善のポイント②のイ	・だれも片付けなくていいのかな。 ・ドッジボール ら。 ・私は自分の仕事 A　片付けない ・私は自分の仕事をちゃんとやった。 ・誰かがやればいい。 ・面倒くさいなあ。 B　しぶしぶ片付ける ・誰かがやらなければ終わらないから。 ・先生に怒られるから。 C　進んで片付ける ・わたしもクラスの一員だから。 ・みんなで決めたハッピースマイルを実現したい。	・配膳台に気付いたものの、自分の仕事ではないので見て見 した主人公の気持ち せる。 5　評価に基づく改善のポイント②のア ・場面絵を注視させ、うつむいている主人公の内面を出し合うことで、主人公の考えや心情を多角的に考えさせる。 ・立場を三つに分け、その動機に着目した話合いをさせる。 ☆自分がやるべきかどうか悩んでいるはるかの内面を考えている。 5　評価に基づく改善のポイント①ア
	[補助発問] この三つの私は、何が違うのでしょうか。	・A は自分のことしか考えていない。人任せな感じがする。 ・B は片付けるけれど、嫌々やっている感じがする。 ・C のように行動すると、自分もみんなも気持ちがよくなる。	・理由の違いを比較することで「よりよい学校生活」を多面的に捉えられるようにする ・自分の仕事は果たしたのに、どうしてほかのこともやろうとするのかを聞き返し、クラスのために進んで働くことのよさを考えさせる。 ☆みんなで協力し合ってクラスのために働くと、明るく楽しいクラスをつくっていけることについて、自分の体験と結び付けながら考えている。

7　考察

これまでの長年にわたる道徳の時間の研究に基づく読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習指導過程において改めて確認しておかなければならないことは、「自我関与になっていたか」ということである。登場人物の心情や考えを自分とのかかわりで考え、登場人物に託して児童が自分自身を語っていくという授業でなければならない。登場人物の心情を理解することが道徳科の授業のねらいでないことを、しっかりと確認し理解しておくことが大切である。

その上で、教材の登場人物への自我関与が中心の学習指導過程にこだわりすぎることなく、問題解決的な学習を取り入れた学習指導過程や道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた学習指導過程などによる道徳科の授業を実施するとよい。また、それぞれの学習指導過程の要素を組み合わせた指導を行うなど、学習指導過程を柔軟に考えていくことが重要である。

＜問題解決的な学習指導過程の作成と評価、改善＞

児童一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

１　具備しなければならない要件

①　道徳的価値に関わる問題場面や明確な課題のある教材

②　問題解決を促すための発問

　ア　問題場面についての児童自身の考え、その根拠を問う発問

　イ　問題場面を実際に自分に当てはめて考えてみることを促す発問

　ウ　問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問　　など

③　問題解決に向けて、他者との対話や協働する学習活動

④　自分とは異なる意見と向かい合う学習活動

＜基本的な学習指導過程＞

導入	道徳的な問題意識をもつ ・教材や日常生活から道徳的な問題を見つける ・道徳的価値の本当の意味への問いをもつ
展開	教材を読んで多面的・多角的に考え、話し合って自分の考えを深める ・道徳的な問題場面について児童の考え、その根拠を問う発問 ・問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問 ・多様な考え方や感じ方を基に問題解決に向けて話し合う学習活動 ・問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す学習活動
終末	本時の学習をまとめる ・学習を振り返り、道徳的な問題についての自分の考えをまとめる。 ・本時で学習したことを今後に生かそうとする意欲を高める。

２　具体例（高学年）

①　主題名　　本当の自由とは何か　【A　善悪の判断、自律、自由と責任】

②　ねらい　　「本当の自由」について、自分自身の考えを出し合い、話し合う活動を通して、自由に行動することのよさや自由の意義を理解し、自律的で責任ある行動をとろうとする態度を育てる。

教材名　　うばわれた自由（出典「私たちの道徳　小学校五・六年」 文部科学省）

③　学習指導過程

1　具備しなければならない要件①

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1「自由について」の事前アンケートの結果を知る。 「本当の自由」とはどういうことなのだろうか。		・ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもたせる。
展開	2　教材「うばわれた自由」を読み、考える。 3　道徳的な問題について話し合う。 ○ガリューのいう「自由」とジェラール王子のいう「自由」とは、どのように違いますか。	＜ジェラール王子＞ ・自分勝手な自由。 ・人のことを考えていない自由。 ＜ガリュー＞ ・きまりを守った上での自由。 ・人のことを考えている自由。 ・きまりを守りながら生活する。 ・自分勝手な行動 ・自由な行動をとる 任が伴うこと。	登場人物、条件、情況についておさえる。 ・小グループでの話合いをすることで、ジェラール王子とガリューの「自由」に対する見方や考え方の違いについて比較検討することにより道徳的価値を多面的・多角的に考えさせる。

1　具備しなければならない要件③④

1　具備しなければならない要件②のア

4　本学習指導過程に基づく指導における評価をこの中で見取っていく。

	○牢屋に残されたジェラール王子が考えた「本当の自由」とはどんな自由なのだろうか。 1　具備しなければならない要件②のウ		・ワークシートに自分の考えを書かせた後、全体で意見交流をする。 ☆自分勝手な行いを改め、周りの人のことを考え、責任をもって行動することの大切さを考えている。 4　本学習指導過程に基づく指導における評価をこの中で見取っていく。
終末	4　この学習を通して学んだことは何かを考える。		・自律的で責任ある行動をとろうとする意欲を高める。

3　工夫、配慮事項等

①　導入では、本時の問題解決的な学習が、問題場面の解決を図る方向で授業を進めるのか、道徳的価値の本当の意味を考えさせる方向で授業を進めるのかを明確にした上で、ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもたせることが重要である。

・生活体験の想起、発表　　・事前アンケートの活用　　・ねらいに関わる新聞記事、児童の作文
・地域の人々の話　　・実験や観察など実物にふれる体験など

②　考える必然性や切実感をもたせ、児童自身の考えを引き出し、多様な考え方の中で改めて自分の考えをもたせるような発問の仕方を工夫する。

・主人公が～したことを、あなた（児童自身）はどう思うのか。
・主人公が～したことには、どんな意味があるのだろうか。
・そのことが、なぜ問題になるのか。
・解決するためにはどのように考え行動すればよいのか。その根拠は何か。

③　多面的・多角的に考える中で自己の生き方についての考えが深まるように、話合いを工夫する。

・ペアやグループ、討論会形式等の学習形態の工夫

④　学習を振り返って、新たな問いや自分の課題を見つける。

4　本学習指導過程に基づく指導における評価（児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子）

①　道徳的な問題意識をもっていたか。
②　何が道徳的な問題となっているか理解していたか。
③　道徳的な問題場面について、どのように考えると解決できるか自分の考えをもっていたか。
④　道徳的価値の意味を改めて考えていたか。
⑤　多様な感じ方や考え方を基に問題解決に向けて積極的に話し合っていたか。
⑥　他者と考えを深める中で新たな道徳的価値や考え方を発見したり、新たな問いや自分の課題を見つけ出したりしていたか。
⑦　評価の視点を予め用意しておき、中心発問等での児童の発言を教師が読み取っていくことが重要である。その際、「どの発言がよいか」というのではなく、「児童を理解していく」という姿勢で児童の発言を捉えていかなければならない。

例えば、児童の道徳性の発達が、他律から自律へ向かうことを踏まえて、児童の発言を「他律的」「自律的」の視点から捉えていくことも考えられる。本時の例で言えば、次のような表を用意しておき、記録していくとよい。

	ワークシートへの記述、発言の内容	児童名
自律的 ⇧ 他律的	・自由を大切にし、きまりを守りながら、責任ある行動をして、みんなが気持ちよく生活できるようにする。 ・自由を大切にして、みんなに迷惑をかけないようにする。 ・きまりを守った上での自由を大切にする。 ・みんなが困るから自由ばかりを言わないようにする。 ・自分勝手でなく、自由に行動する。 ・人に迷惑をかけなければ、自分のしたいように行動する。 ・自由だから自分のしたいように行動する。	児童A 児童B　　など

5　評価に基づく改善のポイント

「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を捉えるための視点をあげ、児童を見取る具体的な内容を示す。

①　「物事を多面的・多角的に考えている様子」の視点から

・「本当の自由とはどんな自由なのか。」の発問に対して、「自由を大切にし、きまりを守りながら、責任ある行動をして、みんなが気持ちよく生活できるようにしたい。」等の、自律的で責任ある行動へとつながるような記述内容が少なかった。

⇒ア　教師は、児童の発言を受け止めながら、「ジェラール王子の自由は、「本当の自由」と言えるのか」「ガリューのいう自由は、「本当の自由」と言えるのか」と繰り返し投げかけ、考えさせるようにする。

⇒イ　自由を自分勝手と混同している考えや、人に迷惑をかけなければ自分のしたいように行動してよいとする考え等もしっかりと出させ、その上で、自由にも制約があるという考えや、自由には責任が伴うという考え等を出させることで、多様な考え方を基に多面的・多角的に考えられるようにする。

②　「道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子」の視点から

・道徳的価値の意味について発言する様子があまり見られなかった。

⇒ア　ガリューとジェラール王子の自由についての考え方が違うことを確認した上で考えさせるようにする。まず小グループでガリューとジェラール王子の自由についての考え方の違いを話し合わせ、自分なりにその違いを明確にさせる。その上で、ガリューとジェラール王子の自由についての考え方に対する児童自身の考えをもたせ、その後、もう一度小グループで意見交換をしながら、児童自身の自由についての考えをしっかりともたせるようにする。

⇒イ　終末で書く活動を取り入れ、「本当の自由」についてじっくり考えさせる時間をとるようにする。

6　改善した本学習指導過程の例

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1「自由について」の事前アンケートの結果を知る。		・ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもたせる。
	「本当の自由」とはどういうことなのだろうか。		
展開	2　教材「うばわれた自由」を読み、考える。		・登場人物、条件、情況についておさえる。
	3　道徳的価値の本当の意味について話し合う。 ○ガリューのいう「自由」とジェラール王子のいう「自由」とは、どのように違うのだろうか。	＜ジェラール王子＞ ・自分勝手な自由。 ・人のことを考えない自由。 ・自由だが無責任。 ＜ガリュー＞ ・きまりを守った上での自由。 ・人のことを考えている自由。 5　評価に基づく改善のポイント②のア	・登場人物のガリューとジェラール王子の自由についての考え方が大きく違うことを伝え、その違いに着目して範読を聞くよう指示する。 ・本時の問題解決的な学習は、自由の本当の意味を考えさせる方向で進めることを明確にする。 ・まず小グループで二人の考え方の違いを話し合わせ、児童一人一人が自分なりにその違いを明確にしてから発表させる。
	○ガリューとジェラールの自由についての考え方に対して、みなさんは、どのような考えをもちましたか。 ［補助発問］ ガリューのいう自由は、「本当の自由」と言えるのか。 ジェラール王子のいう自由は「本当の自由」と言えるのか。	・ジェラール王子は、みんなに迷惑をかける自由だと思う。 ・ジェラール王子のように生活したら、正直、楽しいと思う。 ・みんながジェラール王子みたいだと大変なことになる。 ・ガリューの自由は、自由らしくない。 ・窮屈な感じがする。 5　評価に基づく改善のポイント①のア	・多様な意見を受け入れる雰囲気の中で、児童自身の考えを発表させていく。 ・その際、補助発問を適時に投げ掛け、考えを深めさせていく。

	○「本当の自由」とは、どういうことなのでしょうか。 4　自己を見つめ、自己の課題を発見する。 ○みなさんは、どんな時に自由という言葉を使っていましたか。 ○本当の意味での自由を実現したことはありますか。それは、どんな時ですか。	5　評価に基づく改善のポイント②のア 5　評価に基づく改善のポイント①のイ ・自由を大切にし、きまりを守りながら責任ある行動をしていくことだと思う。 ・みんなが気持ちよく生活ができるように自分勝手をしないような自由だと思う。 ・ゲームを続けたいとき。 ・勉強がしたくないとき。 ・自由勉強。 ・自由時間。	・もう一度小グループで話し合わせ、その過程で自分なりの「自由」に対する考えをしっかりと持たせ、その後、発表させる。 ・自由を都合よく捉える考えを出させた上で、制約や責任が伴う考えも出させ、多面的・多角的に考えさせる。 ☆自由とは何かということについて話し合う中で、多面的・多角的に考えている。 ・自由を自分勝手を同じものと考えていなかったか、自分のこれまでの生活を振り返らせる。 ・児童の様子を見て、必要に応じて小グループで話し合わせる。 ☆これまでの自分を振り返りながら、自分勝手ではなく周りの人のことを考えて、責任ある行動をするという自由の大切さについて考えている。
終末	5　学習を振り返る。 ○今日、学習したことを基に、考えたことを書きましょう。	5　評価に基づく改善のポイント②のイ	・書く活動を取り入れ、「本当の自由」についてじっくり考える時間をとり、自分の言葉で本時をまとめさせる。

7　考察

道徳科の授業においては、教材の登場人物への自我関与を中心とする学習指導過程に加え、問題解決的な学習指導過程を年間指導計画にいくつか位置付けることで、道徳的諸価値に関わる問題を主体的に解決するための資質・能力を意図的に養うことができる。

また、問題解決的な学習に終始するのではなく、登場人物への自我関与を中心とする学習指導過程に一部取り入れることで、道徳科の授業に厚みをもたせ、より効果的な授業をつくることができる。
その際、次の指導方法の工夫が登場人物への自我関与を中心とする学習指導過程以上に重要である。

① 児童の立場を明確にしてから、小グループでの話合い。
② 話合いを深めるための効果的な補助発問
③ ワークシート等を工夫した書く活動

＜道徳的行為に関する体験的な学習指導過程の作成と評価、改善＞

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することによって、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

1　具備しなければならない要件

① 道徳的価値に関わる問題場面が分かりやすい教材
② どのように行動するかを問う発問
③ 役割演技を取り入れた学習活動
④ 役割演技を通して気付いた気持ちや考えを問う発問

＜基本的な学習指導過程＞

導入	本時の学習へ関心を向ける。 ・教材や日常生活から道徳的な問題を見つける
展開	教材を読んで、役割演技等を通して考える。 ・道徳的な問題場面を提示する ・道徳的な問題場面について、どう行動するか役割演技等を通して考えさせる発問 ・役割演技等を通して、多様な気持ちや考えを引き出す発問 ・役割演技等により、その行為をすることの難しさやよさを考えさせる発問 ・問題の解決を見通した役割演技等を促す発問
終末	本時の学習をまとめる。 ・教師の説話。 ・学習を振り返り、自分の考えをまとめる。

２　具体例（低学年）

①　主題名　　あたたかいこころで　【B　親切、思いやり】

②　ねらい　　親切について、役割演技を通してその大切さと難しさを考え、身近にいる人に温かい心で親切にしようとする心情を育てる。

教材名　　はしの上のおおかみ（出典「わたしたちの道徳　小学校一・二年」　文部科学省）

③　学習指導過程

1　具備しなければならない要件①

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1　「人からされて嫌なこと」について、話し合う。	・仲間外れ。 ・いじわる。	・生活場面から、道徳的な問題意識をもつ。
展開	2　教材文を読みながら考える。 ○うさぎやきつねを追い返しているおおかみの気持ちはどんなでしょうか。	・みんなが戻っていくぞ。 ・おもしろいな。 ・ぼくは王様になった気分だ。	・登場人物と一本橋での出来事であることを簡単に話す。 ・追い返すことが楽しくなってきたおおかみに共感させていく。
	○いつまでもくまの後ろ姿を見ていた時、おおかみは心の中で何を考えていたのでしょうか。	・ぼくは、なんてことをしたんだろう。 ・うれしいな。 ・くまさんって、やさしいな。 ・ぼくもまねしようかな。	・教師による役割演技を見て、親切にされたおおかみの気持ちを捉えさせ、自分を反省したり、親切のよさを考えたりさせる。
	○うさぎを抱き上げ、後ろに降ろしてあげたおおかみはどんなことを考えているのでしょうか。	・いいことをしたなあ。 ・親切にすると気持ちがいい。 ・ぼくにもできたぞ。	・おおかみの行動を動作化して気持ちや考えを捉えるようにする。 ☆くまに親切にされたことで、温かい気持ちになったおおかみの気持ちを捉え、その大切さを理解し、自分自身を見つめている。
	［補助発問］ なぜ、おおかみは「まえよりもいい気持ち」になったのでしょうか。	・うさぎくんが喜んでくれて嬉しいな。 ・いじわるをするより気持ちがいいな。	・いじわるをする楽しさと比較させ、親切にできた喜びを捉えさせる。 ☆親切は、した側もされた側もすがすがしい気持ちになることについて考えている。
	3　自己を見つめる。 ○みなさんは、これまでにどんな親切をしたことがありますか。 ○おおかみのように「いい気持ち」で過ごすために、どんなことをしたいですか。	・困っている人がいたら手伝ってあげている。	・親切な行為の写真を見せ、自分の生活と結び付けながら、これまでの自分を振り返ることにより、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。

1　具備しなければならない要件③

1　具備しなければならない要件④

4　本学習指導過程に基づく指導における評価に示す内容をこの中で見取っていく。

1　具備しなければならない要件②

3　工夫、配慮事項等

①　導入において、道徳的な問題意識をしっかりともたせることは、道徳的行為に関する体験的な学習指導過程においても、大変重要である。問題意識をもたせる工夫がなければならない。

・生活場面における問題を出させ、話し合わせる
・問題場面を設定し、役割演技等をさせて問題点を浮き彫りにする
・問題場面がイメージできる場面絵を提示し、問題を想起させる　　など

②　役割演技においては、代表の児童に演じさせ、その児童に気持ちや考えを問うだけでなく、代表の児童の役割演技をもとにクラス全員で話し合わせることも必要である。また、教師は児童のせりふの言い方や身体表現の裏にある道徳的価値への気付きに着目して言葉掛けしたり、役割演技を見ている児童に対して、自分の考えと比較しながら演技を見るように声を掛けたりすることが大切である。

・主人公を演じた児童に対して
　「どんな気持ちで演じたのか」「何が問題なのか」「どのようなことがよさなのか」「何がわかったか」など
・見ていた児童に対して
　「演技を見て、どんなことを考えたか」「何が問題だろうか」「自分ならどうするか」
　「どう行動（演技）すればいいのだろうか」「ほかにどんな行動（演技）が考えられるか」など

③　道徳的価値を多面的・多角的に考えさせるために、主人公だけでなく、そのほかの登場人物を演技することも有効である。

④　主人公の心の内の葛藤を二人で演じることにより、道徳的価値を自分とのかかわりで捉えたり、交流して自分の考えを深めたりすることも考えられる。

⑤　役割演技にイラストやペープサート、人形等の活用を併せて行い、効果を高める工夫も考えるとよい。

4　本学習指導過程に基づく指導における評価（児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子）

①　役割演技により、「分かっていてもできない」自分や、行為することの難しさについて気付いていたか。　（人間理解、自己理解）

②　役割演技により、問題場面を実感を伴って理解でき、多様な感じ方や考え方から道徳的価値の意味や必要性に気付いていたか。　（他者理解、価値理解）

③　道徳的な問題に対して、自分が取り得る行動を演技し、それを基に話合いを深めていたか。　（価値理解）

④　児童の発言等を「一面的な見方・考え方をしている発言」と「多面的・多角的な見方・考え方をしている発言」という視点から聞きながら分析的に捉えていくことも考えられる。本時の例で言えば、次のような表を用意しておき、記録していくとよい。

	発言等の内容	児童名
多面的・多角的な見方・考え方	・親切にするとみんなが気持ちいい。 ・親切はした人もされた人も、両方ともうれしくなる。 ・親切にできる人は、相手が喜ぶことを知っている。 ・親切にすると自分も親切にしてもらえる。	児童A 児童B など
一面的な見方・考え方	・親切にしないのは、自分のことだけを考えている。 ・親切にしないとおこられる。親切にしてほめられたい。 ・相手が困るのが、おもしろいと思っている。 ・相手が嫌がったり困ったりしている気持ちが分からない。	

5　評価に基づく改善のポイント

「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を捉えるための視点をあげ、児童を見取る具体的な内容を示す。

①　「物事を多面的・多角的に考えている様子」の視点から

・導入において、問題意識をしっかりともたせられなかった。
　⇒ア　生活場面を話し合うだけでなく、その場面を取り上げて役割演技により問題を浮き彫りにする。
・授業の流れの中で集中力にやや欠ける様子が見られた。
　⇒イ　教材を区切りながら読み、臨場感を味わわせながらその中で役割演技を考えさせるようにする。
・「親切はよいことだ」という決まり切った発言に留まり、しっかりと考えての発言が少なかった。
　⇒ウ　うさぎやきつねを追い返している場面の「えへん、へん。」と、うさぎを抱き上げ、後ろに降ろしてあげた場面の「えへん、へん。」との違いを役割演技を通して考え、比較検討することにより親切についての考えを深められるようにする。

② 「道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子」の視点から

・意地悪をしてしまう人間の弱さや、それを乗り越えて親切にすることの大切さとその意味を、実感を伴って考えたり感じ取ったりしている児童が多いとは言えなかった。

⇒ア　役割演技の回数を増やし、演技した児童だけでなく、その演技を基に話合いをもち、自分との関わりを大事にしながら問題場面に対する行動の仕方、感じ方や考え方を考えられるようにする。

・教師の観察による評価だけでは、自己表現の苦手な児童の評価が捉えにくかった。

⇒イ　自己評価カードを活用して、展開後段に書く活動を取り入れ、自己のよりよい生き方について、考えさせるようにする。

※　道徳科の授業改善においては、本時の取組状況を自己評価させ蓄積していくことが大切である。ワークシート等に自己評価カードを付け、継続できるよう工夫するとよい。

ふりかえりカード　　◎とてもよい　○よい　△もうすこし	
しんせつについてかんがえることができましたか。	
じぶんのかんがえをはっぴょうすることができましたか。	
ともだちのかんがえのいいなとおもったいけんがありましたか。 だれの（　　）どんな（　　）	

6　改善した本学習指導過程の例

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点　☆評価の視点
導入	1　「人からされて嫌なこと」について話し合い、問題場面を浮き彫りにする役割演技を行う。	・仲間外れ。 ・いじわる。 5　評価に基づく改善のポイント①のア	・経験したことを基に話し合い、その上で、生活場面における問題場面として鬼ごっこに「入れて」と言っても入れてくれない場面を取り上げて役割演技をすることで、問題意識をしっかりともたせる。
	2　教材文を読み考える。 5　評価に基づく改善のポイント①のイ		・登場人物と一本橋での出来事であることを簡単に話す。 ・教材文を区切りながら読み、役割演技を取り入れながら、考えさせるようにする。
	○うさぎやきつねを追い返しているおおかみを役割演技してみましょう。 ・おおかみはどんな気持ちでしょうか。 ・役割演技を見てどんなことを考えましたか。 ・うさぎたちの気持ちはどんなでしょうか。 5　評価に基づく改善のポイント②のア	・おおかみはいい気持ちでいる。 ・王様になった気分だ。 ・戻っていく姿がおもしろい。 ・ちょっとかわいそうだ。 ・自分も威張ってみたいな。 ・もっと優しくした方がいい。	・「もどれ、もどれ」と追い返すおおかみを役割演技することで、実感をもたせて考えさせる。 ・おおかみの気持ち、それを見ている児童の気持ちや考え、うさぎたちの気持ちを捉えさせ、より問題点を明確にし、解決への意欲を高めたい。
	○いつまでもくまの後ろ姿を見ていた時、おおかみは心の中で何を考えていたのでしょうか。	・なんてことをしたんだろう。 ・うれしいな。 ・くまさんって、やさしいな。 ・ぼくもまねしようかな。	・教師による役割演技を見て、親切にされたおおかみの気持ちを捉えさせ、自分を反省したり、親切のよさを考えたりさせる。
	○うさぎを抱き上げて後ろに	・親切にした方がいいな。	・親切にし始めたおおかみの考えを通

	降ろしたおおかみはどんなことを考えているでしょうか。 ・追い返している場面の「えへん、へん。」と、うさぎを抱き上げ、後ろに降ろした場面の「えへん、へん。」の違いを役割演技で確認してみましょう。 3　自己を見つめる。 ○みなさんは、これまでにどんな親切をしたことがありますか。 ○おおかみのように「いい気持ち」で過ごすために、どんなことをしたいですか。	・うさぎも喜んでいるぞ。 **5　評価に基づく改善のポイント②のア** ・これからは親切にしよう。 ・意地悪して威張るより、優しい方が気持ちがいい。 ・親切にすると相手も自分もいい気持ちになる。 **5　評価に基づく改善のポイント①のウ** ・泣いていた友達に声を掛けた。 ・困っていたら手伝ってあげたいな。 ・来年の１年生に分からないことを教えてあげたいな。 **5　評価に基づく改善のポイント②のイ**	して、親切のよさを児童なりの言葉で言わせていく。 ・「えへん、へん。」をペアで役割を交代しながら演技し、優しく親切な行動のよさを実感として捉えさせる。 ☆２つの「えへん、へん。」を比較することを通して、親切にすることの大切さについて多様に考えている。 ・親切な行為の写真を見せることで、教材と自分の生活を結びつけながらこれまでの行動や思いを振り返らせる。 ・ワークシートに書く活動を取り入れ、自分自身を見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。 ☆親切は、した側もされた側もすがすがしい気持ちになることを自分の体験と結び付けながら考えている。

７　考察

役割演技は、登場人物への自我関与が中心の学習指導過程においても積極的に取り入れるとよい指導方法である。しかし、ここでは、自我関与に拘らず、教材の中の問題場面を実感を伴って考え理解させ、様々な問題を主体的に解決するための資質・能力を養う道徳科の授業を構想するために、役割演技の効果をより一層生かし、活用した授業を考えている。

その際、次の工夫・配慮が重要である。

①　役割演技等を指名して行わせる場合、誰にその役割をさせるのか、誰とさせるのかを考える。

②　役割演技等の場面設定はよく検討し、より効果的な設定とする。

③　児童全員に役割演技等をさせるためにペアで行うなどの工夫や、演技を見て話し合うなどの工夫をする。